

議員定数の条例改正案を可決

次回改選時18人から14人に削減

9月定例会は、2日から19日まで開かれ、条例改正3件、補正予算5件、決算認定7件などの議案が提出され、すべて原案どおり可決しました。また、議員発議として条例改正や意見書などを提出し、可決しました。なお、14人の議員が一般質問を行い、町当局の考えをいただきました。

条例改正

平成19年9月に開設された大中遺跡公園について、21年度から町の管理から指定管理者にゆだね、有料公園施設とするため「播磨町都市公園条例」を改正するとともに、「大中遺跡公園駐車場の設置及び管理に関する条例」を廃止しました。質疑では、地元への迷惑駐車などについて「町に苦情や要望があれば指定管理者と協議し、付近住民に不便のないように対応します」と回答。また、「非常勤消防団員等に係る損害補償の基準を定める政令」が一部改正されたことに伴い、配偶者以外の扶養親族の補償月額を200円から217円に引き上げるため「播磨町消防団員等公務災害補償条例」を改正しました。定例会最終日の19日には、次の改選時の定数を現在の18人から4議席削減して14人にする「播磨町議会の議員の定数を定める条例」の一部を改正する条例が議員提案で提出され、発議者から提案理由の説明を受け、賛成討論4人、反対討論3人の後に採決した結果、賛成多数で可決しました。

教育委員任命に同意

9月30日の教育委員任期満了に伴い、櫻井啓子氏(大中)の再任と黒田英造氏(神戸市西区)の新任に同意しました。任期は4年です。



▲貴重なオニバスがよみがえった狐狸ヶ池

補正予算

●一般会計

定例会初日、一般会計予算額を2519万8千円増の87億5753万7千円にする補正予算が提案され、提案理由の説明を受けました。最終日の19日には、この補正予算の質疑・討論・採決の結果、賛成多数で原案どおり可決しました。今年4月の人事異動による増減のほか、歳出の主な

ものとしては、個人住民税の公的年金からの特別徴収(天引き)に対応する電子計算システムの導入費用、利用料や経営事項審査の評価内容の改正に伴うシステム変更費用など884万5千円を増額しました。経営事項審査とは、公共工事を直接請け負おうとする建設業者が必ず受けなければならない審査です。また、「医療法人知定会」が小規模多機能型介護拠点整備事業を実施するため、

播磨町地域介護施設整備補助金交付要綱に基づき交付する補助金1800万円を増額しました。これは、国から全額補助されます。テルペン跡地の一部(1600㎡)を多目的広場として活用するための整地費用と、門扉1か所の設置費用140万5千円を増額しました。前年度決算確定による繰越金6989万円と小規模多機能型介護拠点整備事業を

実施するための国庫補助金1800万円を増額し、財源調整のため財政調整基金8411万1千円を減額しました。●特別会計 国民健康保険事業、下水道事業、介護保険事業の3つの特別会計についても補正予算を原案どおり可決しました。

補正予算を原案どおり可決しました。決算認定 決算特別委員会が9月2日の本会議で設置され、平成19年度各会計の決算を審査しました。9月11日から16日までの間に3日間開催し、慎重に審査した結果、「一般会計」では実際の支出において一部不適切な事務処理が行われているなどの指摘がある

りましたが、国民健康保険事業、財産区、老人保健医療事業、下水道事業、介護保険事業の5つの特別会計と水道事業会計とともに「認定」することに決定しました。請願3件を審査 請願が3件提出され、会期中に付託された常任委員会で審査し、本会議での採決の結果は以下のとおりです。「採択」としたのは「生活品の物価高騰に対する緊急対策を求める意見書の採択を求める請願」。「一部採択」は「自主共済制度の保険業法適用見直しを求める請願」で、新保険業法の「経過措置」期限を平成20年4月1日に遡って1年間の延長を要求することにしました。これら請願の採択後、意見書が議員提案で提出され、賛成多数で可決し、国の関係機関に送付しました。また、「後期高齢者医療制度の廃止を求める請願」は「不採択」としました。

7月臨時会

「播磨ふれあいの家」温水ヒーター修繕工事を可決

7月18日に臨時会が開かれ、「播磨ふれあいの家」の温水ヒーター修繕工事に伴う補正予算1件を可決しました。

「播磨ふれあいの家」の浴室に給湯している温水ヒーターは、平成6年の竣工後、経年劣化により今年6月に給湯温度が上昇しないトラブルが発生したため、温水ヒーターのオーバーホール(分解点検・修理)を行うほか、機械室内の配管を取り替える必要性が生じました。

このため、286万7千円増額する補正予算が提出され、採決の結果、全会一致で原案どおり可決しました。

主な質疑は次のとおり。

Q 温水ヒーターのオーバーホールではなく、新しく取り替えることは考えなかったのか。

A 鋳鉄製で腐食しにくいこと、また新しく取り替えると費用が高むことから部品の交換を考えた。

Q コストパフォーマンスの観点から計画的な修繕計画を検討していたのか。

A 空調、外壁・内壁などすべて年次計画を立て実施していくことになっているが、今回は温水ヒーターの急な不具合により前倒しとなった。

Q 契約方法は。

A できるだけ早く修繕に着手したいため、3社以上の見積もり比較による随意契約としたい。

Q 今回のオーバーホールによりどれくらいの耐用年数が見込まれるのか。

A メーカーによると、部品の耐用年数は10年が目安と聞いている。